

ここに
ご注意

火災を防ぐ



●たばこの火の始末

「たばこの火の不始末」は常に火災原因の上位を占めています。たばこの火は700～800度もの高温で、火を消したつもりでも完全に消えていないことがあります。

- 灰皿には常に水を入れておく
- 吸い殻は灰皿に溜めず、消火を確かめこまめに捨てる
- 寝たばこは厳禁
- 火の付いたたばこを灰皿に置いたままにしない
- 灰皿のまわりに燃えやすいモノを置かない

●コンロの火の始末

台所で最も注意が必要なのはコンロ。天ぷらなど油を使う調理では、高温になると油自体が発火するのでその場を離れないようにしましょう。

- 調理中のコンロを離れる時は必ず火を消す
- 可燃物はもちろん、コンロの周りにはモノを置かない
- 使用中のコンロには衣服を近づけない
- 古くなったガスホースは取り替える
- コンロは壁から離して置く
- 就寝前や外出前には必ずガスの元栓を閉める

●ストーブの火の始末

およそ半年間暖房が必要な北海道ではストーブも火災の主原因の一つ。日々当たり前に使っているだけに注意が行き届かない面もありますので、改めて危険度は高いと考えてください。

- ストーブをつけたまま就寝しない
- ストーブの周りに可燃物を置かない
- 部屋に誰もいなくなる時はストーブを消す
- シーズン前に点検整備を行う
- ポータブルストーブの給油は火が確実に消えてから
- 火の燃え方などに異常を感じたら使用を止める
- 自動消火機能などを過信しない

●コンセントの防火対策

見落としがちなのがコンセントです。発熱して火災の原因になることがあります。差したままになっているコンセントはホコリなどを掃除してください。

- たこ足配線はしない

住宅火災

火の始末は念には念を入れて…

高齢化社会を迎え、一人暮らしの高齢者が増え続けています。体のさまざまな機能が低下するなか、一人暮らしの気楽さから「安全」への心配りもつい疎かになりがちです。火の始末もその一つ。火災そのものの件数は昔と比べて減っているものの、火災で亡くなられた人のおよそ

9割が住宅火災によるものと聞くと、住まいの防火対策がいかに大切か分かります。しかもその内のおよそ7割を65歳以上の高齢者が占めており、火災は決して他人事ではないことに気がかされます。火の始末には充分気を配っていると思いますが、もう一度ご確認を。

- 電気コードをカーペットや家具の下敷きにしない
- 古くなった電気コードは取り替える
- コードを引っ張って外さない
- アイロンやドライヤーは使用后プラグを抜く

●住宅用火災警報器を確実に設置

現在、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器の設置場所は、寝室・台所・階段(2階に寝室がある場合)なので、まだ設置していない家庭、または一部しか設置していない家庭は、早めに必要なすべての場所に設置してください。

●万一の時に備えて

- 避難に時間がかかる人は、避難しやすい場所で過ごす
- 階段や廊下などに避難時に邪魔になるモノを置かない
- 自力での消火が難しいと思ったらすぐに避難
- 避難後は絶対に引き返さない

●家庭用機器・設備を活用する

最近では、自動消火装置を始め、身体機能の低下を補ったり、初期消火などに役立つさまざまな家庭用機器・設備があり、防火対策には有効です。